



楠の葉新聞

【先駆者の言葉の雫】

- 想いを胸に想いをカタチに想いを一つに
 - 潤いとユーモアをそして感動を
- シグレイオン—

ならぬことは、ならぬものです

8年ほど前の大河ドラマの主役の決め台詞でこの言葉を知りました。そして、しばらく間違っ言葉の意味を解釈してしまいました。「ダメなものダメ」これが言葉の意味だと思っていました。え？「違うの？」そう思った方がいいかもしれません。そしてそこから、これからの日本について考えてみたいと思います。

「ならぬことは、ならぬものです」これは会津藩(福島県)の武士の子どもたちへの教え「什のおきて」の最後に書かれている言葉です。

「什のおきて」

- 一つ、年長者の言うことに背いてはなりません。
 - 二つ、年長者にはお辞儀をしなければなりません。
 - 三つ、虚言を言うことはなりません。
 - 四つ、卑怯な振る舞いをしてはなりません。
 - 五つ、弱いものをいじめてはなりません。
 - 六つ、戸外でものを食べてはなりません。
 - 七つ、戸外で婦人と言葉を交えてはなりません。
- ならぬことは、ならぬものです

武士の子どもたちが10人ほどのグループを作ってそのグループ内で自分の1日の行動を振り返り「什のおきて」を確認しあつたのだそうです。一〜五までは「確かに」と現在でも納得できる場所もあります。六、七に関しては時代ならではと考えるとどうでしょうか。つまり、ただ何でも「ダメなものダメ」という意味ではなく、「什のおきて」に対して「やっではないいけないことはやっではないいけない」と念を押している確認の言葉になります。

先日、文部科学省が携帯スマホの学校内持ち込みを容認する考えを示しました。これより先に大阪府が四月から小中学校への児童生徒の携帯スマホ持ち込みを許可する方針とガイドラインを示しました。持ち込みを許可することに對して議論するつもりはありません。まさに時代です。私の周りによく「社会通念に照らし合わせて」という方がいます。「社会通念」＝「人間の暗黙の了解」もはや子どもがスマホを携帯することは社会通念。そのスマホを学校に持ち込むことは社会通念と考えるべきなのでしょう。学校にスマホを持ち込むことは否と言われてきた時期から今はスマホは常に携帯すべき時代と考えることが社会通念と考えるべきなのでしょう。「ならぬことはならぬ」ではなく「ならぬ」と思っていたことも「考えを改めなければならぬ」ということなのでしょう。

考え方が古いとか時代錯誤とかではなく今の時代「何がならぬこと」なのか「何を什のおきて」と捉えるのか「誰が什のおきて」を考えるのか。そんなことを考えてしまいました。社会通念に照らした「現代版什のおきて」誰かつくりましたか。みなさんならどんな什のおきてをつくりますか？だから、「ならぬこととはならぬものです」

何もかもが許されて何でもOKということではないと思います。岡富中の「什のおきて」生徒と考えてみたいと思います。(勝手にすることはできません)まさに熟議をしてみました。

ちなみに「会津藩の什のおきて」を破った場合の罰は「一、無念」詫び」「二、竹篋」「三、絶交」仲間はずれ」と段階的に重くなるのだそうです。ちなみに二の竹篋は「しつぺい」と読みます。俗にいう指で相手をたたくシツペです。これがまた体罰ということになればこの罰はそれで問題ですが、自分たちの生活環境を自分たちで規律をつくり整える。主体的な学びであり正解のない社会を生きていく重要なスキルだと考えることもできます。まあ、「体罰」はどんな理由があれ「ならぬことは、ならぬものです」このことは社会通念に照らすまでもなく「当たり前」と言えるでしょう。

今回の先駆者の言葉の雫はシグレイオン。ただ、この名前の方は実在しません。この言葉を発した人は存在しません。私の教育理念や生き方の根幹となっている言葉です。師と仰ぐ先輩の言葉だと気付くのに10年近くかかりました。先輩の許可なしで記載していますので人についてはこれぐらいにして。一つ目の言葉の雫、想いは口にしなければ決してカタチにはなりません。二つ目の言葉の雫、集団や組織は厳しさの中にも温かみやユーモアに包まれ、感動を得られる仲間によってつくられることがあらゆることへの成功につながると思います。明日卒業する3年生にこの言葉を贈ります。ご卒業おめでとうございませぬ。

